

2. 評価結果（詳細）

主任調査員 山下賀子 調査員 中村朋美

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念に加え、地域との交流を大切に、地域の中でその人らしく生活できる環境作りを支援する理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、理念や方針について、月1回の定例会議や申し送りの中で、理念を掘り下げて具体的なケアについて話し合いを持っている。又、玄関、リビング、台所にも理念を掲示し、職員の意識付けを行なっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として自治会に加入し、地域の文化祭に入居者の作品を出品したり、校区運動会にも共に参加している。ホームで行なう行事に地域住民の参加もある。又、婦人会ボランティアの踊り、幼稚園の子供達の空手や踊りの訪問など、地域との交流を多くもっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は、自己評価や外部評価の意義を理解し、自己評価を全員で行なっている。昨年の外部評価の要改善項目についても、全職員で取り組み、検討、改善が図られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3月、5月に運営推進会議を開催し、日々の活動状況説明や結果報告、自己評価の報告を等を行なっている。又、ホームの見学をしてもらい、意見や要望、助言等を聞き、サービスの質の向上に努めている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険課と連携をとり、介護相談員を受け入れたりしている。又、運営推進会議への参加も呼びかけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行の「ふれあい通信」をスタッフが交代で作成し、入居者の生活状況を報告している。又、外食の内訳や金銭報告も月1回行っている。面会時には情報交換したり、必要時は電話連絡で確認をとっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に積極的に声をかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。又、運営推進会議に家族の参加を呼びかけ、意見や要望を出してもらえるよう働き掛けたり、苦情相談窓口も明示している。出された意見はスタッフ会議で話し合い、解決している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者との馴染みの関係を重視し、法人内での職員の移動は最小限に抑えている。やむを得ず移動があった場合は入居者や家族に報告し、入居者へのダメージが最小になるよう取り組まれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員を育てることの重要性を認識しており、パート職員も同じように内外の研修参加の機会を設け、伝達講習も行なっている。職員は全員ヘルパー2級者を採用し、3年後に介護福祉士を受験できるよう応援体制もとっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内のグループホーム同士の交流はよくあり、交換研修も1日交代で行なった事もあった。職員からも他事業所の同業者と交流を持ち、ネットワーク作りをしながらサービスの質を高めていきたいとの希望もきかれる。	○	グループホーム連絡協議会への加入を現在検討中である。今後、地域の他同業者との交流する機会をもつことで、事業者同士協働しながらサービスの質の向上に役立てていきたいことを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望があれば管理者が自宅に出向きホームの説明をし、見学から体験入所を経て、本人が納得した上で入居に至るなど、馴染みの関係作りに配慮している。又、入居後も家族の訪問機会を増やすなどの協力を得ながら、安心して過ごせるように配慮がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	園芸や料理、縫い物など日常生活のあらゆる場面で、人生の先輩である入居者に教わる機会を作りながら、それぞれの得意分野を發揮してもらうなど、一緒に楽しみながら支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、入居者の思いや希望をきいたり、難聴の方には筆談したりしながら、意向の把握に努めている。家族からの要望も取り入れながら本人の意向を重視した支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の生活の中で本人家族の意向を把握し、月1回のモニタリング、スタッフ会議の中で職員も意見を出し合いながら、入居者本位の介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎に介護計画の見直しが行なわれている。又、月1回のモニタリングで評価を行い、状態変化に応じた随時の見直しも出来ている。		安定しているような利用者の場合でも予防介護の視点から、定期見直し期間の短縮が望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、病院受診、美容室の送迎、外出の支援の他、週1回同法人のデイサービスの温泉利用、訪問看護の支援も週1回24時間体制で受けることができ、入居者や家族に満足してもらえるような支援の取り組みがなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選択は、本人及び家族の意向を最優先としている。通院時は、家族とのつながりを保つためにも家族に同行してもらっているが、家族が行けない時は職員が代行し、家族との情報交換も密に行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末に対する対応指針のマニュアル、同意書も作成されている。職員はターミナルケアについての勉強会も行いながら、知識を習得中である。又、必要に応じ法人からの介護要員の応援体制も考慮しながら、支援できる方法を検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、日々の申し送りや会議の折に、対応の仕方や言葉使いについて職員と話し合いをもち、入居者のプライバシーを損ねないよう対応の徹底を図っている。個人情報の取り扱いについても、記録物の持ち出しをしない、口外しない事を職員に話し、職員の理解を促している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その日の望みやしたい事を把握し、食事や入浴の時間をずらしたり、散歩、買い物、外出等希望に合わせた支援を心がけ柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー作りは入居者と一緒に本を見ながら希望を聞いたり、季節の食材を取り入れたものを一緒に作成している。調理、盛り付け、配膳、片付けも一緒に行い、一人ひとりのペースに合わせてながら楽しく食事が出来るよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば毎日の入浴も可能であるが、週3回は入浴できるよう支援し、拒否時は翌日に入浴してもらったり、清拭したりしている。又、週1回は同一法人のデイサービスの温泉に出かけており、入居者は楽しみにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫、お手玉作りをし、玉入れを皆で行なったり、カルタ読み、イチゴ作り、花の水やり、料理の準備と片付け、おしぼりの準備、毎日のメニューを黒板に記入してもらおう等一人ひとりの得意分野を發揮してもらいながら、楽しんで生活できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの意向を大切にしながら、公園への散歩を毎日行なったり、近くの商店や花屋に買い物に出かけている。又、車で物産館で野菜を購入したり、外食やドライブ、お弁当を持つてのピクニック、温泉、墓参り等外出する機会を多く持ち、季節感を味わい気分転換ができるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前が交通量の多い通りに面している為、安全面の配慮から状況に応じ一時的に施錠するときもあるが、鍵をかけることの弊害はよく理解されており、日中は鍵をかけず見守りながら対応されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携を図り年2回の消防訓練を実施し、消防分遣隊との協力体制は出来ているが、地域住民との協力体制や訓練への参加等の呼びかけは行なわれていない。災害時の非常食は同一法人の栄養課に備蓄があり、台風に備えての職員の応援体制は出来ている。	○	災害時に地域住民の協力が得られるように、自治会や運営推進会議で検討し、支援体制の整備に向けた取り組みが期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力医療機関の管理栄養士に、毎月献立を見てもらい専門的アドバイスをもらっている。水分は1日1000mlを目安にし、食事摂取量の記録や毎月の体重測定をして状態把握に努め、個々に合わせた食事の支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先は季節の花や野菜が植えられ、居間には入居者の作った作品が飾られ季節感をかもし出している。1, 2階共ゆっくりくつろげる場所も確保されている。採光や音量にも配慮がなされ、熱帯魚の水槽や家庭的な家具調度品を配し快適な共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口は段差をなくし、滑り止めを使用した工夫がなされている。ベッドと寝具はホームで用意し、タンスやコタツ、机、椅子、写真など持ち込まれ、本人が居心地良く過ごせるよう配慮されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。